地震や水害に備えよう!

一のう作りや枚

元を狙うのがこつと教わりまし験。見えている炎や煙でなく、火験に見えている炎や煙でなく、火

とで、迅速な消火活動ができるとあるかを普段から確認しておくこ いうアドバイスもありました。 自宅のどこに消火器が置いて また学校やスーパーなどの店

地震で転んだり、倒 れた家具に当たったり

して意識を失った人に対する処置を実践。心臓マ ッサージ体験では人形を使った訓練に取り組みま した。AED(自動体外式除細動器)の操作も実 機で練習しました。





市販の土のう袋に土 を入れ、協力して運ん

だり、並べたりと参加親子が汗を流していました。 重い袋を持ち上げ、顔を真っ赤にして運ぶ子ども の姿も見られました。

親子ら120人参加

を先生役に、3班に分かれた親子連れら本赤十字社岡山県支部のボランティアら災士、被災地支援団体所属の大学生、日 ラムが実施されました。ゲッズ作り、土のう作り体験の6プログ 一役社長による開会のあいさつでスター 災ベッド体験会、 救急法講演会と防災講話、消火訓練、 新聞紙を使った防災

されている備蓄向けの保存食(一部)のほかに防災クイズや、ハローズで販売 が次々に体験していきました。 レゼントなどもありました。

さわやかな秋晴れのもと、公園に集まっ ローズ、山陽新聞社でつくる実行委主催) **大切さを再認識しました。** た親子連れら約120人が防災・減災の が10月23日、早島町ふれあいの森公園(岡 3県早島町矢尾)で初めて開かれました。 」(早島町、ハ

の備えや適切な避難生活、

多彩な体験プログラムを通じ、災害へ

新聞紙スリッパや、避難所で食避難が難しい場合などに役立つラスが割れて散乱し、素足ではラスが割れて散るし、素足では り方を教えてもらいました。 器が足りない時に、簡易な食器 の代用品となる新聞紙の皿の折





奨されることや、本やぬいぐる 静かに過ごすための品も必要な 分の非常食を備蓄することが推 ことなどを教えてもらいまし った、子どもが避難所で



軽量で強度の高いクッション

戦しました。数分で完成するの

難所での生活の質向上に役立つに、実際に横になると快適。避

ことを体感しました。

ハローズの防災対策 「人命第一」社員と顧客を守りたい

近い将来発生すると予測されている南海トラフ地 震に備えるため、ハローズは2018年、防災マニュア ルを策定。以来、同社本部ともちまわりの数店舗で 毎年1回、防災訓練を実施し、対策本部運営や避難 方法を再確認して社員の意識高揚を図っています。 また同年、西日本豪雨で倉敷市真備町地区などが 被災したことを教訓に、水害対策も追加策定しまし

このほか、出店エリアの自治体と非常時に食料・ 飲料水を提供する協定を結んで地域防災に貢献した り、19年に日本政策投資銀行のBCM(事業継続マ ネジメント)格付けを取得し、防災対策事業向けの 融資を受けたりと、取り組みを広げています。

同社の花岡秀典専務取締役は「地域と社員の皆さ まの人命を第一に考え、企業として防災・減災の取 り組みを一層強化していきたい」と話しています。

避難する時にガラスやとがった石でけがをしないよう、に避難できるよう工夫したい。安全に避難できるよう工夫したい。



火元狙って消火 中川 優大 さん(12) =岡山市=

参

加

者

の

感

想



思わぬ危機も回避 板谷 綾乃 さん(10) =倉敷市=



エアロシェルターの下に集まり、参加者らが記念撮影。同シェルターは災害時の避難

場所や救援物資の保管場所の確保に役立てようとハローズが今年導入したもの